

キャリア教育調査委員会

一 研究テーマ

「児童生徒一人ひとりが夢や希望をもち、自己実現を目指して自己の個性を理解し、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育てていくキャリア教育の在り方」

二 テーマ設定の理由

近年、社会構造の変化や社会的価値観の多様化により、児童生徒が将来の生き方や職業観について具体的な見通しをもつことが難しくなっている。進路選択の幅が広がる一方で、「自分はどのように生きたいのか」「社会とどのように関わっていくのか」といった根源的な問いに向き合う機会は十分とは言えない。

本地区においても、特に中学校では、キャリア教育が「職業理解」にとどまっている現状にあり、「生き方の基盤形成」として捉え直す必要性が高まっている。

三 調査研究の進め方

本委員会では、当初、県外における先進的なキャリア教育実践校への視察を計画していた。しかし、協議を重ねる中で、「キャリア教育とは何か」「本地区におけるキャリア教育の本質とは何か」という根本的な問いに対する整理が不十分なまま、先進事例を導入することは、取組の表層化や形式化を招くおそれがあるという認識に至った。

このため、本年度は視察の実施を見送り、各校で既に行われている教育活動を丁寧な整理・分析することを優先課題とした。

四 各校の取り組みの概要

(1) 神川小学校の取り組み

神川小学校では、8年前より4～6学年によるクラブ活動において、地域の方を講師にお迎えし活動を行っている。本校のクラブ活動の特徴は、クラブの運営の全てを地域講師の方が行い、教員はあくまでサポートをするだけであるということである。

今年度は、12のクラブが設置され、それぞれに地域の方を講師にお迎えし、1回90分×5回の活動を行った。

サッカー、ソフトボール、卓球、ダンス、ニュースポーツ、バドミントンなどの運動系から、茶道、テーブルゲーム、プログラミング、マンガイラスト、料理などの文科系まで、講師の方の専門性をフルに生かした内容に、子どもたちは生き生きと活動に取り組むことができた。また、ふるさと探検クラブでは講師の方の人脈を存分に活用し、ふだん何気なく通り過ぎていた神川地区の様々な場所をより深く知ることができた。

このように、地域の方の専門性を最大限に生かしていただき、子どもたちも生き生きと取り組んできたクラブ活動であるが、キャリア教育の観点から見つめなおすと、地域の方と関わることの大切さが見えてくる。

子どもたちがこれから生きていく社会は、様々な問題が山積し、予測不可能なことだらけであり、課題を乗り越え解決していく力が必要となる。その力を育成するために必要となってくるのが、「人とつながること」であり、人と人とがつながることが、新しい社会をつくっていく力の源になる。その「人とつながること」のためには必要になってくるのが、「多様な他者と関わり合う場」である。多様な他者と直に相互に関わることを通して、子どもたちが人に対する関心や愛着

を深め、信頼感を構築できるようになり、「多様な他者」の考え方や生き方を見て、自分のこれからの行動を考えるきっかけができる。「多様な他者と関わり合う場」が多ければ多いほど、子どもたちが考える場は増えていく。

教員側が、地域講師の方の専門性だけに注目するのではなく、クラブ活動の時間を「多様な他者と関わり合う場」としてとらえることで、子どもたちのキャリア形成のよりよい場にもなる。

また、本校では、5年生では地域の方を講師として一年間かけて米作りを行っている。また、収穫後の藁を活用したしめ縄作りでも地域の方を講師としてお招きしている。また、3学年での地域の施設の社会見学でも「多様な他者」と関わっている。

このように、これまでの活動をキャリア教育の観点で見直し、子どもたちに意識的につなげることで、過度な負担をかけることなく、キャリア教育の充実が図られると思われる。

来年度以降も、本校で積み上げてきた教育活動をキャリア教育の観点で見直しながら、より一層のキャリア教育の充実を図っていきたい。

(2) 東御市立柵津小学校の取り組みから

1. 取組の概要

本校では、各学年以下のように各学年の「キャリア教育目標」と「年間テーマ（ 線部分）」を設定して、教科横断的にキャリア教育を行っている。

低学年 : a 小学校生活に適応する。 b 身の回りの事象への関心を高める。
c 自分の好きなことを見つけて、のびのびと活動する。
(みんなとなかよくなるう・いろんな人やものとふれあおう)

中学年 : a 友達と協力して活動する中でかかわりを深める。
b 自分の持ち味を発揮し、役割を自覚する。
(地域から学ぼう・人から学ぼう)

高学年 : a 自分の役割や責任を果たし、役立つ喜びを体得する。
b 集団の中で自己を生かす。
(自分の将来に目を向けよう・自分を知り、夢を持とう)

2. 各学年の取組

「学校たんけん」(せんせいのしごと) (1学年)

校舎を探検しながら、場所を覚えて、学校生活に希望をもてるようにする。また、場所と合わせ

て校内の先生の名前や、どんな仕事をしているのかを知り、身近にいるおとなに関心をもつきっ

か
けとなるように活動をおこなった。

「ブドウの栽培協力」(4、6学年)

地域のワインブドウの苗植え、藁捲きなどのお手伝いを通して、地域の文化や特色に触れることができた。地域の気候や土地の様子がワインブドウ作りに適していることを知り、社会の授業でも興味をもって調べるなど、活動から興味を発展させる児童がいた。また、6学年はブドウの収穫・ワイン工場見学を行い、収穫の喜びや大変さを体験することができる。自分たちが収穫のお手伝いさせてもらったワインを成人式に飲みたいという声があった。

「課外活動 歌舞伎クラブ」

「祢津歌舞伎保存会」のみなさまの協力・ご指導のもと伝統文化に触れ、楽しみ、継承したいと願う有志の児童による講演が毎年3回行われる。中でも4月に行う講演は、地域に現存する歌舞伎舞台での発表で、地域の方のみならず、たくさんの方が足を運んでくれる一大イベントとして、何年も受け継がれている。また「おひねり」をいただくことで、努力の成果を実感することができ、学校生活のあらゆる場面で自信がついた様子も見られた。

今回本校のキャリア教育の実態をまとめる中で、地域の特色を生かしたキャリア教育をおこなうことができていると感じた。地域の方の協力があってこそ成り立つものが多いことに改めて気づくことができた。

今後も、地域の特色あるキャリア教育に加え、各教科においてもキャリア教育の視点で捉え、つきたい力を身につけられる授業や教育活動に努めたい。

(3) 上田市立塩田中学校の取り組みから

1. 取組の概要

本校では、キャリア教育の目標及び目指す生徒の姿を以下のように定めて取り組んだ。

【キャリア教育の目標】

- 1 肯定的に自己を理解すると共に他者も尊重する。
- 2 自己の興味や関心に基づく勤労観と職業観を形成する。
- 3 生き方や進路に関する探究を主体的に実行する。

【キャリア教育で目指す生徒の姿】

- 1 自他共に認め合い、より良い生活を築こうとする生徒。
- 2 自分たちが生活している地域の良さに気づき、自ら関わろうとする生徒。
- 3 学ぶことや働くことの意義を理解し、仲間と協力し合い、喜びや達成感を味わう生徒。
- 4 自分の将来を見通し、夢や希望を持ち、努力する生徒。

2. 地域との関わりを大切にした取組

日頃から地域ボランティア「塩田っ子応援団」の皆様から学習支援・環境支援などを受けているなかで、地域との関わりを大切にした取組を総合的な学習の時間で行い、キャリア教育の一環としている。以下に、各学年の取り組みを紹介する。

「1学年 「地域を学ぶ」 (塩田めぐり)」

- ①「塩田めぐり」という行事を行い、徒歩で塩田の名所を巡った。場所は、大円寺(座禅)・林農園(りんご狩り)・長福寺(写経) 安楽寺(座禅)・満願寺(抹茶)・龍光院(座禅)・舌喰池・常楽寺・北向観音・中禅寺・前山寺・生島足島神社・塩野神社など。
- ②準備では塩田地域について調べたり聞いたりして学んだ。
- ③事後は、実際に自分の足で見聞きしたり体験したりしたことをレポートにまとめ、地域の良さを広めた。
- ④地域の方をお呼びして、塩田地域について学んだ。



「2学年 「地域で学ぶ」(職場体験)」

- ①職場体験を行い、1年次に学んだ地域で実際に働く体験をする。
- ②準備では、自分が体験する職場について調べ、マナーについて確認した。
- ③事後は、実際に職場体験をして学んだことや感じたことをレポートにまとめた。社会のため、地域のために自分はどのようにしていきたいかを考える機会となった。



3学年 「地域のために」(地域貢献活動)

- ①8つの講座に分かれ、地域貢献活動を行った。講座は、「塩田を愛する『ゆるキャラ』誕生！プロジェクト」「塩田平のバードウォッチングプロジェクト」「別所線の魅力を探ろうプロジェクト」「塩田オリジナル商品開発プロジェクト」「塩田中避難所シミュレーションプロジェクト」「塩田和太鼓に込める地域の魂プロジェクト」「『るるぶ塩田版』魅力発信プロジェクト」「きれいなふるさとプロジェクト」
- ②校外の講師をお呼びしてそれぞれの講座で地域のためにできることを考え、活動した。
- ③発表会では、講座活動の成果を発表した。

(4) 青木中学校の取り組み

「職場体験学習」

青木中学校2年生は7月15日、16日の2日間、村内の職場や上田市内の鉄道関係、行政機関で職場体験を行った。実際に働く方々の姿を間近で見たり、仕事を体験したりすることで、働くことの大変さややりがいを実感し、普段の学校生活では味わえない経験を通して多くのことを学ぶ生徒の姿みられた。

【生徒の感想】

お客様には見えないところでの苦勞を体験できました。苦勞の上にあるものがやりがいにつながるのではないかと感じました。

自衛隊の方々が私たちの安全を第一に考えて訓練している姿に胸を打たれました。将来、「人の役に立てる職に就きたい」という気持ちがとても強くなりました。

「国際交流」

9月9日にはリモートでフィリピンの中学2年生と英語で国際交流をしました。交流前は不安を感じる生徒の姿もみられたが、交流後はキラキラした笑顔で「楽しかった！」「今度はいつなの？」という声が多く聞かれ、自分の英語が伝わる嬉しさを実感し、多くの生徒が充実感と達成感を覚える姿があった。

【生徒の感想】

すごく趣味の合う方がいて、たくさん話すことができうれしかったです。思ったより自分の伝えたいことが伝わっていて安心しました。

今回はもっとジェスチャーを取り入れてやりたいです。相手もたくさんNice!とGood job!をジェスチャーしてくれてうれしかったです。相手のこともたくさん知ることができました。文化の違いも感じられて楽しかったです。

(5) 上田市立第一中学校の取り組みから

1. 取組の概要

本校では、児童生徒が自己の生き方を主体的に捉え、将来に向けた意欲や態度を育成することを目的として、教科、特別活動および総合的な学習の時間と関連させたキャリア教育の充実に取り組んでいる。

特に今年度の第2学年では、人権同和教育と絡めながら「誰もが住みやすい社会をつくるために何ができるか」ということを問いにして学習を進めている。事前学習・体験活動・振り返り学習を系統的に配置し、学期を通した継続的な学びとなるよう計画した。

2. 1学期の取組

1学期においては、2学期に行う職場体験の事前学習として、7月に1日総合の日を設定した。「ジョブカフェ信州」や実際に働いている人たちに学校に来ていただき、お話を聞いたり、質問をしたりすることを通して、自己理解を進めることの大切さを学んだり、職場体験に向けての見通しをもちながら働くことの価値を学ぶ時間を取った。



3. 2学期の取組

2学期には、実際に地域の事業所において職場体験活動を実施した。生徒は、挨拶や時間厳守といった基本的な態度の重要性を実感するとともに、仕事のやりがいや責任の重さについて、実体験を通して学ぶ機会となった。当初は、働くことを「大変そう」「疲れそう」といった印象で捉える生徒が多く見られた。しかし、職場体験後には、「誰かの役に立っていることが分かった」「責任をもって仕事をするの意味が分かった」といった感想が多くなり、労働観や社会観における意識の変化が確認された。

また、美容室に職場体験に行った生徒は、職場の方から「美容師は数字に強いことが強みになる。カラー剤やパーマ剤を扱うときは数学が生かされる」という言葉を聞いたことについて「美容師になりたいと思っていたけれど不安になった。美術も数学も頑張らないといけないと思った」と振り返った。職場体験をきっかけに、日々の授業の大切さを実感する姿が見られた。

各校においては、教科指導、特別活動、総合的な学習の時間、学校行事、生活指導等、多様な教育活動を通して、児童生徒の自己理解や社会的役割意識の育成が図られている。

例えば、中学校における職場体験学習、小学校における地域との交流活動などは児童生徒が他者と協働し、責任を担い、役割を果たす経験として重要な意味をもっている。

これらの活動は、従来は「行事」や「特別活動」として区分されてきたが、キャリア発達の視点から捉え直すことで、児童生徒の生き方を支える重要な学習機会であることが明確になった。

五 成果と課題

本研究を通して、多くの学校が、多様な他者とかかわる場の設定をしていることがわかった。多様な他者と出会うことで、これからの自分の姿を描きながらこれまでの自分の姿を振り返る姿も見られた。

一方で、児童生徒間における意識の変容には個人差があり、活動の意義を十分に言語化できない児童生徒の姿も確認された。活動の意図が児童生徒に伝わっていなかったり、教育課程の編成の中での

位置づけが他の教育活動との結びつきが薄くなっていたりすることが原因だと考えられる。

今後のキャリア教育の推進において重要なのは、新たな取組を付加することではなく、既存の教育活動をどのような視点で捉え直すかという点である。

各教科、特別活動、総合的な学習の時間、学校行事等を、「どのような資質・能力の育成につながるのか」や「どのような生き方の学びが内在しているのか」という観点で再構成し、学校の教育目標と一体化させていくことによって、キャリア教育は「特別な取組」ではなく「日常の教育活動そのもの」として機能するようになると言えよう。

キャリア教育を考えることは、すなわち学校づくりを問い直すことである。児童生徒にどのような力を育てたいのかという問いを、教職員集団が共有することで、日常の実践一つ一つに意味が生まれる。

本委員会の取組は、直ちに完成形を示すものではないが、問いを共有し、方向性を見いだすための基礎的な整理として一定の成果を得ることができた。今後も、本地区の実態に即したキャリア教育の在り方について、継続的に検討を進めていきたい。